

スジエビ資源に関する予備的調査

田中 秀具

1. 目的

琵琶湖産スジエビは、平成 21～22 年の漁獲が極めて不振であったことから、本種の資源的な研究の必要性が生じた。ところが本種の資源・生態学的な研究・記録¹⁾²⁾は極めて少なく、当場の研究報告(昭和 25 年発行の第 1 号以降)をみても食性に関する 1 報³⁾のみである。

そこで、スジエビの 1 年を通じた漁業実態と、漁獲状況の関係を把握するため、沿湖漁協・漁業者からの漁獲情報の収集と漁獲標本調査による資源の概要把握を行った。

2. 方法

沿湖の漁協、漁業者等からの聞き取りにより、季節的な漁場の分布の変化を推測した。

また、堅田、沖島、朝日および彦根市磯田の各漁協所属の漁業者から分譲された漁獲標本のサイズ、抱卵状況等を測定し、成長、産卵期、分布・移動等の推測を行った。

3. 結果

スジエビ漁業は 5～8 月に沿岸で行われるエビタツベと 9～4 月に行われる沖曳網が主体で、他にエリ(春～夏)での混獲がある。漁業者からの聞き取りにより作成した琵琶湖のスジエビ漁場(可能性のある水域も含む)とその季節変化の概要を図 1 に示す。漁獲標本によるスジエビのサイズの季節変化を図 2 に示す。以上の調査から推測したスジエビの季節移動、サイズの変化等を順を追って述べる。

繁殖期は 5 月後半には始まっており、標本では 7 月まで、聞き取りでは初秋まで継続する。沿岸でタツベで採捕されるエビは大型で、抱卵率が高く、成熟個体(親エビ)が主体と思われる。10 月中旬以降は沖の深所へ移

動する。その後真冬には琵琶湖北西部の最深部へ集中する。小型個体の移動は大型個体の移動より遅れるため、漁期後半の漁獲物の平均サイズが小型化する。3 月後半～4 月には接岸・浅所への移動が始まる。

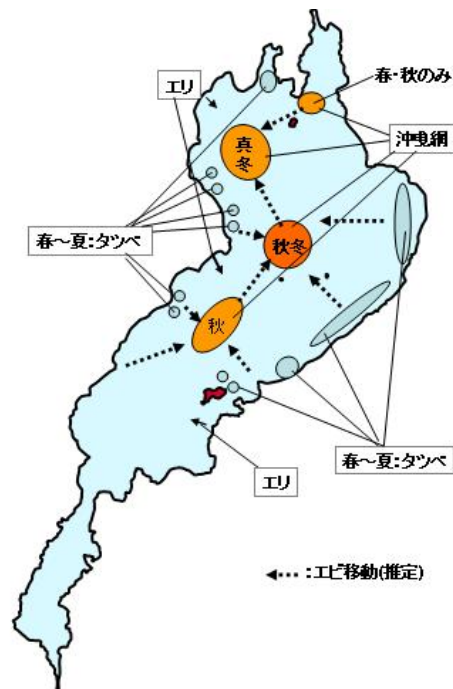


図 1. 聞き取りによるスジエビ漁場の季節的な分布と移動

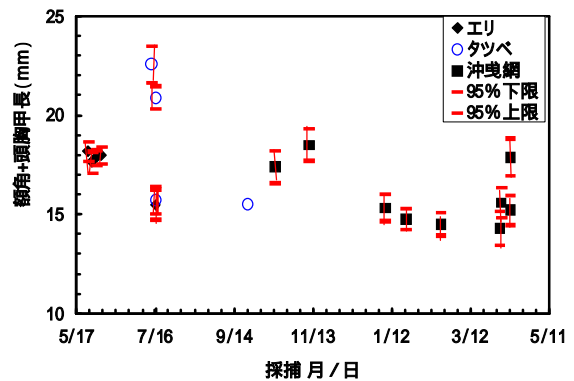


図 2. スジエビのサイズの季節変化(額角+頭胸甲長)

文献 1)西野麻知子・原田英司(1991): 湖沼におけるスジエビ浮遊幼生の分散、回帰過程. 月刊海洋 23(10). P646 - p649
 2)上野世司(2011): 夜間中層曳き調査によるスジエビ採集量の長期変動. 平成 21 年度滋賀水試事報. p51.
 3)水谷英志・田沢茂・大野善弘(1978): スジエビの流下アユ仔魚摂食について. 滋賀水試研報第 30 号. P39 ~ p44.